

2025 年 4 月パブリックコメント後
事務局修正案_見え消し版

第 5 次館山市総合計画

第 1 部 序論

第 2 部 基本構想

■本書の留意事項

1. 本案は、計画に記載する内容（項目、文章）を検討するためのものです。
2. 内容以外のレイアウト、色、飾り（線・網掛、マーク、イラスト）は全て仮です。
3. 計画に記載する内容が決定後に、計画書（冊子）として編集デザインを行います。
4. 巻頭ページ（市長メッセージ、特集ページ）は編集デザイン段階で作成します。

令和8（2026）年3月

館山市

2025 年 4 月パブリックコメント後
事務局修正案_溶け込み版

第 5 次館山市総合計画

第 1 部 序論

第 2 部 基本構想

■本書の留意事項

5. 本案は、計画に記載する内容（項目、文章）を検討するためのものです。
6. 内容以外のレイアウト、色、飾り（線・網掛、マーク、イラスト）は全て仮です。
7. 計画に記載する内容が決定後に、計画書（冊子）として編集デザインを行います。
8. 巻頭ページ（市長メッセージ、特集ページ）は編集デザイン段階で作成します。

令和8（2026）年3月

館山市

テーマ① 急速な人口減少を抑制する

- 少子化に歯止めがかかりません。10 代後半から 20 代前半の進学や就職等による転出が続き、30 代以降の転入も縮小傾向にあります。
- 長期的には、総人口、年少人口、生産年齢人口の減少が続き、増加していた老年人口（65 歳以上）もすでに令和 3 年から減少に転じています。急速な人口減少を抑制し、館山市の実情に応じたまちづくりを推進することが、持続可能なまちづくりを進めていく上で最重要テーマとなります。

テーマ② 経済基盤の強化

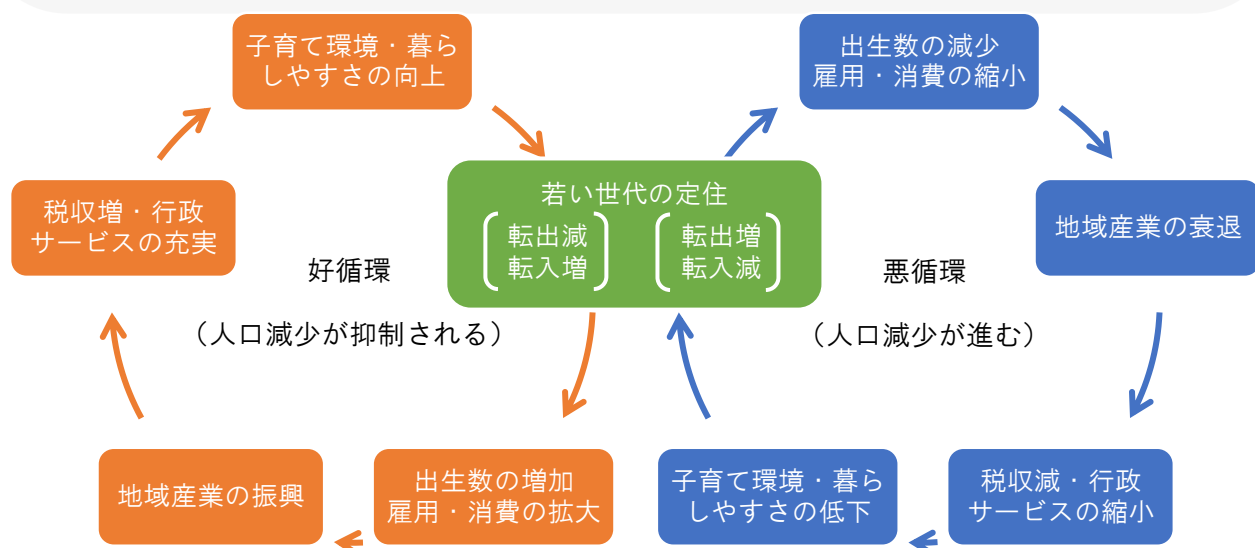
- 経済環境の変化や人口減少の進行により、生産・消費活動の縮小、担い手や事業所数の減少等、地域経済は厳しい状況にあります。
- 人口減少を抑制する基点として、地域及び市民の経済基盤の強化が不可欠です。

テーマ③ 子育てしやすさ、安全・安心の暮らしの向上

- 若い世代が家庭を持ち、自分の子ども達にも“この地域で、就職・結婚・子育てをしてもらいたい”と思ってもらえるような環境づくりが必要です。
- 一人ひとりの多様性を尊重し、誰一人取り残さないまちを実現するためには、市民協働による取組が不可欠です。
- 全国で自然災害が頻発しており、本市も令和元年に大きな台風被害を経験しました。この経験を後世に伝え、市全体で「人生 100 年時代」を生き生きと安全・安心に暮らしていくことのできるまちづくりを進める必要があります。

テーマ④ 行財政基盤の強化

- 本市の財政構造の弾力性を表す経常収支比率は高止まりしており、大変厳しい財政状況にあります。今後も人口減少等による税収減少の一方、扶助費の増加、公共施設の大規模改修等が見込まれます。
- 人口減少や少子高齢化など様々な社会情勢に対応できる行財政経営を行っていくことが不可欠です。



テーマ① 急速な人口減少を抑制する

- 少子化に歯止めがかかりません。10代後半から20代前半の進学や就職等による転出が続く、30代以降の転入も縮小傾向にあります。
- 長期的には、総人口、年少人口、生産年齢人口の減少が続く、増加していた老年人口（65歳以上）もすでに令和3年から減少に転じています。急速な人口減少を抑制し、館山市の実情に応じたまちづくりを推進することが、持続可能なまちづくりを進めていく上で最重要テーマとなります。

テーマ② 経済基盤の強化

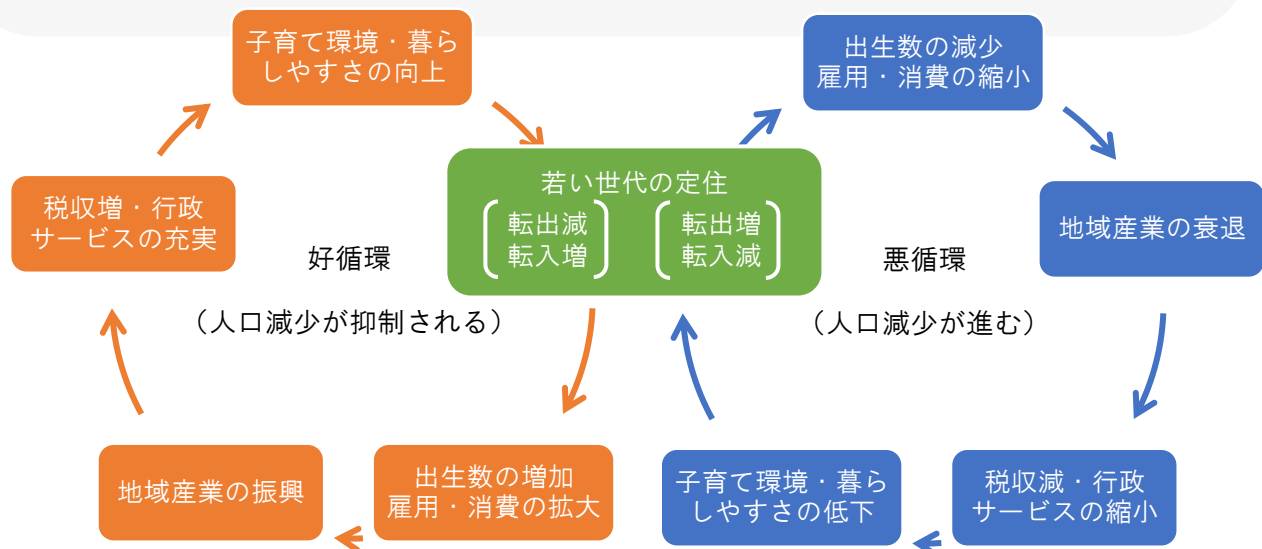
- 経済環境の変化や人口減少の進行により、生産・消費活動の縮小、担い手や事業所数の減少等、地域経済は厳しい状況にあります。
- 人口減少を抑制する基点として、地域及び市民の経済基盤の強化が不可欠です。

テーマ③ 子育てしやすさ、安全・安心の暮らしの向上

- 若い世代が家庭を持ち、自分の子ども達にも“この地域で、就職・結婚・子育てをしてもらいたい”と思ってもらえるような環境づくりが必要です。
- 一人ひとりの多様性を尊重し、誰一人取り残さないまちを実現するためには、市民協働による取組が不可欠です。
- 全国で自然災害が頻発しており、本市も令和元年に大きな台風被害を経験しました。この経験を後世に伝え、市全体で「人生100年時代」を生き生きと安全・安心に暮らしていくことのできるまちづくりを進める必要があります。

テーマ④ 行財政基盤の強化

- 本市の財政構造の弾力性を表す経常収支比率は高止まりしており、大変厳しい財政状況にあります。今後も人口減少等による税収減少の一方、扶助費の増加、公共施設の大規模改修等が見込まれます。
- 人口減少や少子高齢化など様々な社会情勢に対応できる行財政経営を行っていくことが不可欠です。



第1章 将来像

序論で述べた本市の状況を踏まえて、本市が目指す10年後の姿を基本構想で示します。

(1) まちづくりの将来像

キラキラと輝く波静かな鏡ヶ浦鏡ヶ浦の向こうに、まぶしい夕日と富士山を望むことができる。本市は、一年を通じて温暖で、四季折々の様々な魅力を愉しむことができます。

幾多の先人たちが紡いできた歴史や文化が薫るこのまちを次代につないでいくために、本市の目指すまちづくりの将来像を定めます。

みんなが主役 住んで楽しい 来て楽しい まち・館山

まちの将来像には、まちづくりに対する次のような思いを込めています。

『みんなが主役』

これからのまちづくりは、市民の皆様をはじめとする多様な主体と行政の連携による“協働のまちづくり”が重要です。本市に関わるみんなが幸せを感じ、楽しむことができるまちを目指して、関係する多様な皆様との連携をさらに深めながら、本市をみんなで盛り上げていくという意味を込めています連携を深めながら取り組んでいきましょう。

『住んで楽しい』

温暖な気候と豊かな自然の中で、こどもたちの笑い声があふれ、市民一人ひとりがいきいきと自分らしく、みんなであつながら、共に安心して暮らすことができるまちをみんなであつていきましょう。さらに、このまちで成長した若者の定住の地として、また、多くの方々の移住や二地域居住の地として選ばれることを目指すという意味を込めますまちを目指します。

『来て楽しい』

本市は、夏は潮風が涼しく冬は温暖な恵まれた気候、海と山に囲まれた豊かな自然、東京都心からのアクセス性などの地域特性があります。を活かして、さらにまちの個性魅力をみんなで磨き上げる。ていくことで、この地域まちに惹かれた国内外の人々が来訪を重ね、このまちの一員として、共にまちの価値を高めていただく一員となっていくことを目指しますという意味を込めています。

『まち・館山』

今後も変化し続ける社会情勢や本市のテーマに適切に対応しながら、持続可能なまちであり続け、市民の皆様の地元愛と幸福度を高めていくことが、本市の最終目標です。

第1章 将来像

序論で述べた本市の状況を踏まえて、本市が目指す10年後の姿を基本構想で示します。

(1) まちの将来像

キラキラと輝く波静かな鏡ヶ浦の向こうに富士山を望むことができる本市は、一年を通じて温暖で、四季折々の様々な魅力を愉しむことができます。

幾多の先人たちが紡いできた歴史や文化が薫るこのまちを次代につないでいくために、本市が目指すまちの将来像を定めます。

みんなが主役 住んで楽しい 来て楽しい まち・館山

まちの将来像には、まちづくりに対する次のような思いを込めています。

『みんなが主役』

これからのまちづくりは、市民の皆様をはじめとする多様な主体と行政の連携による“協働のまちづくり”が重要です。本市に関わるみんなが幸せを感じ、楽しむことができるまちを目指して、みんなで連携を深めながら取り組んでいきましょう。

『住んで楽しい』

温暖な気候と豊かな自然の中で、こどもたちの笑い声があふれ、市民一人ひとりがいきいきと自分らしく、安心して暮らすことができるまちをみんなでつくっていきましょう。さらに、このまちで成長した若者の定住の地として、また、多くの方々の移住や二地域居住の地として選ばれるまちを目指します。

『来て楽しい』

本市は、夏は潮風が涼しく冬は温暖な恵まれた気候、海と山に囲まれた豊かな自然、東京都心からのアクセス性などの地域特性があります。まちの魅力をみんなで磨き上げていくことで、このまちに惹かれた国内外の人々が来訪を重ね、共にまちの価値を高めていく一員となっていただくことを目指します。

『まち・館山』

今後も変化し続ける社会情勢や本市のテーマに適切に対応しながら、持続可能なまちであり続け、市民の皆様の地元愛と幸福度を高めていくことが、本市の最終目標です。

(2) 目指す姿 達成すべき指標

本計画全体で**目指す姿 達成すべき指標**（重要目標達成指標（KGI））として、急速な人口減少を抑制すること（将来人口）、人口規模に応じた持続可能な社会の実現等により、市民のウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に良好な状態）を高めること（幸福度）を定めます。

◇ **重要目標達成指標（KGI） ①将来人口**

国及び千葉県の人口が減少する中、本計画を着実に実施し、子育てしやすい環境の整備や地域産業の稼ぐ力の向上を図り、若い世代の移住・定住の実現をととして、国立社会保障・人口問題研究所が算出した基準人口推計（令和5年12月推計）を上回る人口（**国勢調査人口**）の維持を目指します。

実績		重要目標達成指標（KGI）	
令和2（2020）年		令和17（2035）年 （計画策定時から10年後）	令和32（2050）年 （計画策定時から25年後）
45,153人 （国勢調査）		38,500人程度 （国勢調査人口基準）	32,500人程度 （国勢調査人口基準）
参考	国立社会保障・人口問題研究所 推計準拠（令和5年12月推計）	37,685人	30,710人

“将来人口推計”に関する図を挿入

(2) 達成すべき指標

本計画全体で達成すべき指標（重要目標達成指標（KGI））として、急速な人口減少を抑制すること（将来人口）、人口規模に応じた持続可能な社会の実現等により、市民のウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に良好な状態）を高めること（幸福度）を定めます。

◇ **重要目標達成指標（KGI）** ①**将来人口**

国及び千葉県の人口が減少する中、本計画を着実に実施し、子育てしやすい環境の整備や地域産業の稼ぐ力の向上を図り、若い世代の移住・定住の実現をととして、国立社会保障・人口問題研究所が算出した基準人口推計（令和5年12月推計）を上回る人口（国勢調査人口）の維持を目指します。

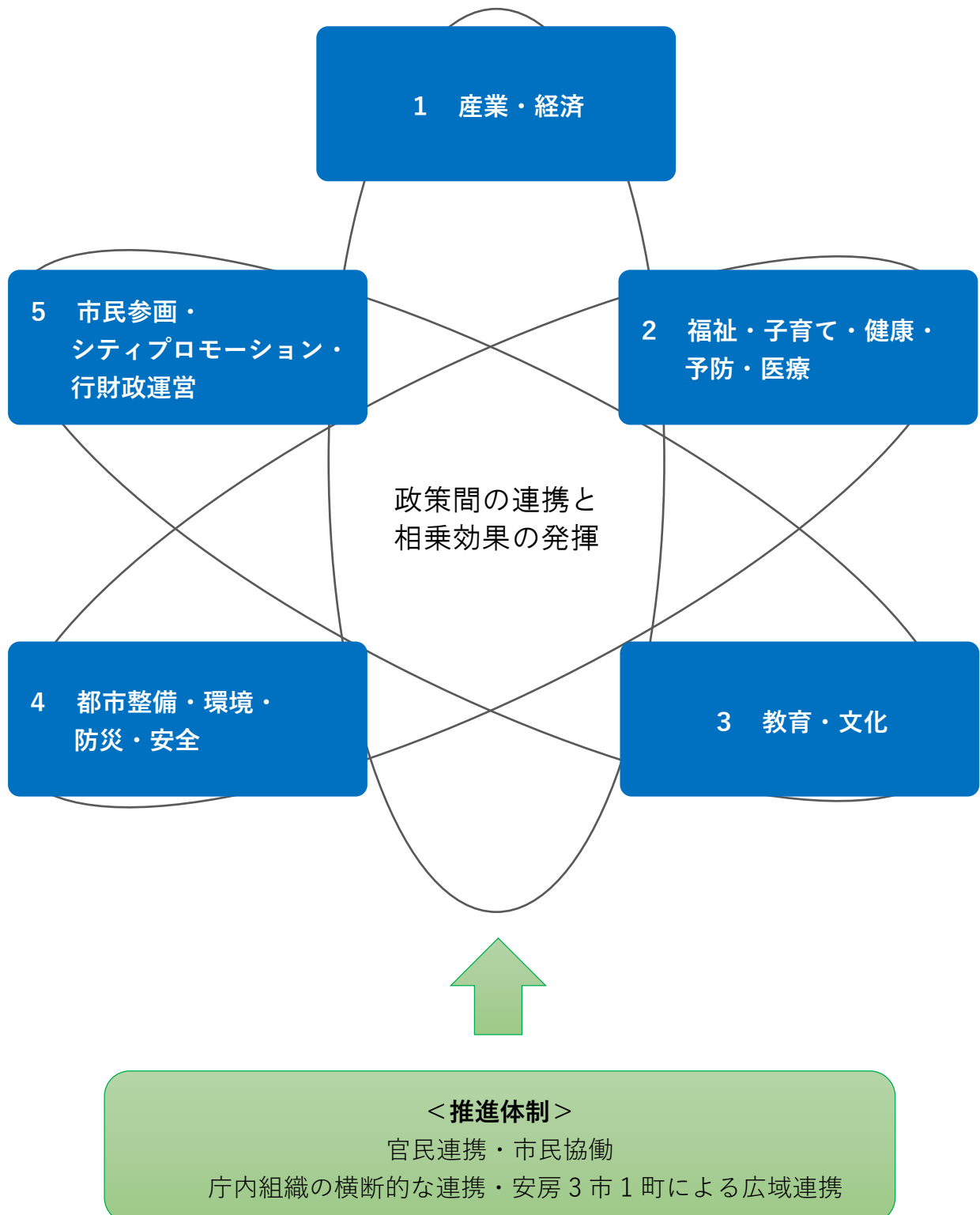
実績		重要目標達成指標（KGI）	
令和2（2020）年		令和17（2035）年 （計画策定時から10年後）	令和32（2050）年 （計画策定時から25年後）
45,153人 （国勢調査）		38,500人程度 （国勢調査人口基準）	32,500人程度 （国勢調査人口基準）
参考	国立社会保障・人口問題研究所 推計準拠（令和5年12月推計）	37,685人	30,710人

“将来人口推計”に関する図を挿入

第3章 基本目標

「まちづくりの将来像」と「目指す姿 達成すべき指標」の実現に向けて、5つの「基本目標」を定めます。

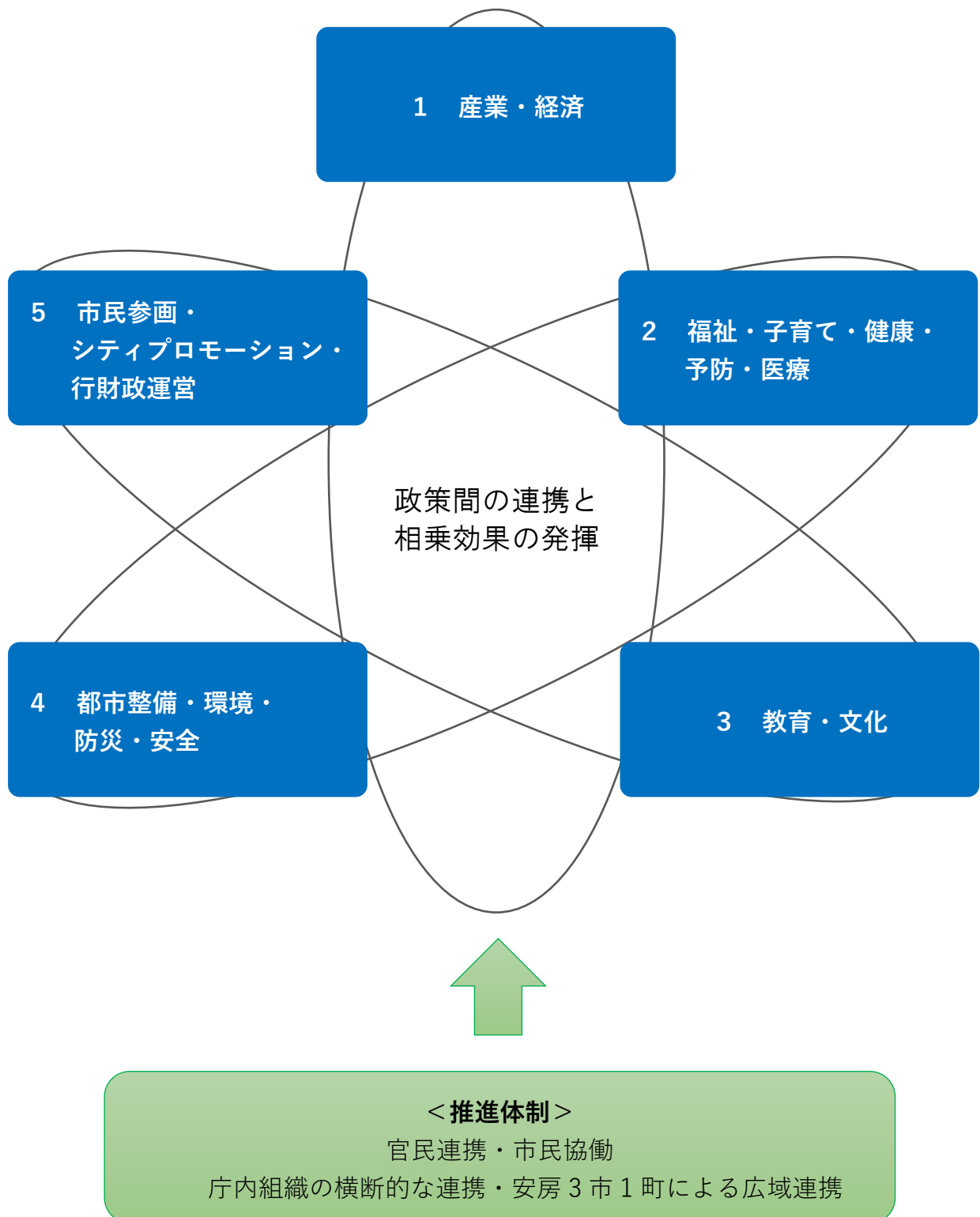
「基本目標」は、それぞれの目標達成を目指すとともに、政策間の連携を図り、相乗効果が発揮されることにより、本市の魅力や価値を高めます。



第3章 基本目標

「まちの将来像」と「達成すべき指標」の実現に向けて、5つの「基本目標」を定めます。

「基本目標」は、それぞれの目標達成を目指すとともに、政策間の連携を図り、相乗効果が発揮されることにより、本市の魅力や価値を高めます。



基本目標1 産業・経済

10年後の姿▶ 事業成長と多様な働き方、市民所得の好循環により、人材の集積が実現している

- 産学官民の分野横断的な協力と連携、産業全体のDX（デジタル・トランスフォーメーション）の促進、観光・農水産業・商工業の連携・振興を進め、地域産業の生産性と収益力の向上による地域経済の成長と循環、市民所得の増加を目指します。
- 安房地域の多様な資源と地域特性（東京都心との近接性、一年を通じて温暖な気候）を活かし、サテライトオフィスやリモートワーク等を含めた企業誘致、起業・創業の促進、移住・二地域居住の促進とともに、柔軟で多様な自分らしい働き方や暮らし方を推進し、市内外からの人材集積と定住促進に取り組みます。

基本目標2 福祉・子育て・健康・予防・医療

10年後の姿▶ こどもの成長と自分らしい暮らしを見守る温かいまちが実現している

- 充実した医療環境、先端技術の活用、人の温もり（地域の支え合い）の融合を進め、一人ひとりに寄り添う支援・サービスの最適化とともに、お互いに支え合う「地域共生社会」の進化・深化を目指します。
- すべてのこども・若者の身体的・精神的・社会的に幸福な生活（ウェルビーイング）を目指す「こどもまんなか」社会の実現に向けて、豊かな海や山の自然を活かしてこども達が健やかに成長できる環境の充実と、こどもを産み育てやすい総合的な支援の充実を通じて、若い世代の幸福度の向上を目指します。

基本目標3 教育・文化

10年後の姿▶ 教育と歴史・文化、スポーツの力で活気あふれるまちが実現している

- 未来を担うこども達に良好な教育環境を提供するため、少子化の時代においても特色ある多様な規模の公立学校を設置し、一人ひとりの児童生徒が自分の良さや可能性を認識し、**地域に誇りと愛着を持ち、豊かな人生を切り拓くことができるこども達を育みます。**
- 「人生100年時代」にふさわしい生涯学習の推進、市民と共に地域の歴史と文化を守り育てるほか、新たな楽しみ方や自然環境を活かしたスポーツの推進を図るなど、関係人口の一層の拡大に取り組みます。

基本目標1 産業・経済

10年後の姿▶ 事業成長と多様な働き方、市民所得の好循環により、人材の集積が実現している

- 産学官民の分野横断的な協力と連携、産業全体のDX（デジタル・トランスフォーメーション）の促進、観光・農水産業・商工業の連携・振興を進め、地域産業の生産性と収益力の向上による地域経済の成長と循環、市民所得の増加を目指します。
- 安房地域の多様な資源と地域特性（東京都心との近接性、一年を通じて温暖な気候）を活かし、サテライトオフィスやリモートワーク等を含めた企業誘致、起業・創業の促進、移住・二地域居住の促進とともに、柔軟で多様な自分らしい働き方や暮らし方を推進し、市内外からの人材集積と定住促進に取り組みます。

基本目標2 福祉・子育て・健康・予防・医療

10年後の姿▶ こどもの成長と自分らしい暮らしを見守る温かいまちが実現している

- 充実した医療環境、先端技術の活用、人の温もり（地域の支え合い）の融合を進め、一人ひとりに寄り添う支援・サービスの最適化とともに、お互いに支え合う「地域共生社会」の進化・深化を目指します。
- すべてのこども・若者の身体的・精神的・社会的に幸福な生活（ウェルビーイング）を目指す「こどもまんなか」社会の実現に向けて、豊かな海や山の自然を活かしてこども達が健やかに成長できる環境の充実と、こどもを産み育てやすい総合的な支援の充実を通じて、若い世代の幸福度の向上を目指します。

基本目標3 教育・文化

10年後の姿▶ 教育と歴史・文化、スポーツの力で活気あふれるまちが実現している

- 未来を担うこども達に良好な教育環境を提供するため、少子化の時代においても特色ある多様な規模の公立学校を設置し、一人ひとりの児童生徒が自分の良さや可能性を認識し、地域に誇りと愛着を持ち、豊かな人生を切り拓くことができるこども達を育みます。
- 「人生100年時代」にふさわしい生涯学習の推進、市民と共に地域の歴史と文化を守り育てるほか、新たな楽しみ方や自然環境を活かしたスポーツの推進を図るなど、関係人口の一層の拡大に取り組みます。

基本目標4 都市整備・環境・防災・安全

10年後の姿▶ 豊かな自然がいつもある、快適で安全なまちが実現している

- 市民生活を支えると同時に交流機能と防災機能を高めるインフラ（社会基盤施設・設備）の適切な維持管理を推進します。
- 快適な居住性と公共交通ネットワークの形成を連携して取り組むコンパクト・プラス・ネットワークの都市構造を目指し、地域公共交通網をはじめとする生活分野のDX（デジタル・トランスフォーメーション）に取り組みます。
- 地域コミュニティや関係機関等との連携により、市民が安心して暮らすことができるよう、空家等の発生の抑制や利活用、地域防災力の向上をはじめとする防災対策に取り組みます。
- 地球温暖化を抑制するゼロカーボンシティ（脱炭素都市）への転換を軸に、多様な主体との協働・連携により、持続可能な社会の構築を目指し、資源の効率的利用や環境保全を重要視する資源循環型社会や地域循環共生圏、GX（グリーン・トランスフォーメーション）を推進し、豊かな海と緑を感じる心地よい住環境の確保を目指します。

基本目標5 市民参画・シティプロモーション・行財政運営

10年後の姿▶ まちづくりへの市民参画が活発となり、市民の幸福度を高める行財政運営が実現している

- 性別や年齢などの多様な背景や価値観を尊重する多文化共生（多様性と包摂性のある社会）の視点を軸に、シティプロモーション（地域ブランディング）を推進し、積極的な市民参画によるまちづくりを目指します。
- 市民の幸福度を高めるため、社会情勢に応じて業務や組織をアップデート（最適化）する行政運営や財政力の強化、コンプライアンスの強化、安房3市1町の広域連携に取り組めます。
- 今後も大変厳しい財政状況が続くと予想されることから、ふるさと納税やクラウドファンディングなどの多様で安定的な財源を確保し、より良いまちづくりに向けて円滑に事業を行うことができる環境づくりに取り組めます。

基本目標4 都市整備・環境・防災・安全

10年後の姿▶ 豊かな自然がいつもある、快適で安全なまちが実現している

- 市民生活を支えると同時に交流機能と防災機能を高めるインフラ（社会基盤施設・設備）の適切な維持管理を推進します。
- 快適な居住性と公共交通ネットワークの形成を連携して取り組むコンパクト・プラス・ネットワークの都市構造を目指し、地域公共交通網をはじめとする生活分野のDX（デジタル・トランスフォーメーション）に取り組みます。
- 地域コミュニティや関係機関等との連携により、市民が安心して暮らすことができるよう、空家等の発生の抑制や利活用、地域防災力の向上をはじめとする防災対策に取り組みます。
- 地球温暖化を抑制するゼロカーボンシティ（脱炭素都市）への転換を軸に、多様な主体との協働・連携により、持続可能な社会の構築を目指し、資源の効率的利用や環境保全を重要視する資源循環型社会や地域循環共生圏、GX（グリーン・トランスフォーメーション）を推進し、豊かな海と緑を感じる心地よい住環境の確保を目指します。

基本目標5 市民参画・シティプロモーション・行財政運営

10年後の姿▶ まちづくりへの市民参画が活発となり、市民の幸福度を高める行財政運営が実現している

- 性別や年齢などの多様な背景や価値観を尊重する多文化共生（多様性と包摂性のある社会）の視点を軸に、シティプロモーション（地域ブランディング）を推進し、積極的な市民参画によるまちづくりを目指します。
- 市民の幸福度を高めるため、社会情勢に応じて業務や組織をアップデート（最適化）する行政運営や財政力の強化、コンプライアンスの強化、安房3市1町の広域連携に取り組めます。
- 今後も大変厳しい財政状況が続くと予想されることから、ふるさと納税やクラウドファンディングなどの多様で安定的な財源を確保し、より良いまちづくりに向けて円滑に事業を行うことができる環境づくりに取り組みます。